

## 保護者等からの児童発達支援評価表

評価結果公表予定日：2019年 3月 6日	法人名：社会福祉法人ヒューマンライツ福祉協会
-----------------------	------------------------

		チェック項目	はい	どちらともいえない	いいえ	わからない	事業所が工夫している点	調査結果に基づいた事業所の改善目標
環境・体制整備	1	子どもの活動等のスペースが十分に確保されているか	97%	0%	0%	3%	法令を遵守したスペースを確保するとともにプログラム別の場所も確保しています。	<b>1. 調査結果（全体）</b> はい：85% どちらともいえない：7% いいえ：1% わからない：7%  <b>2. 調査結果（満足度 22・23項目）</b>  <b>①子どもは通所を楽しみにしているか</b> はい：88% どちらともいえない：12% いいえ：0% わからない：0%  <b>②事業所の支援に満足しているか</b> はい：100% どちらともいえない：0% いいえ：0% わからない：0%  <b>3. 「はい」の回答が95%以上の項目</b>  ○生活空間は、本人にわかりやすい構造化された環境 i になっているか。また、障害の特性に応じ、事業所の設備等は、バリアフリー化や情報伝達等への配慮が適切になされているか。 ○運営規程、利用者負担等について丁寧な説明がなされたか。 ○事業所の支援に満足しているか。 ○子どもの活動等のスペースが十分に確保されているか。 ○職員の配置数や専門性は適切であるか ○日頃から子どもの状況を保護者と伝え合い、子どもの健康や発達の状況、課題について共通理解ができているか。 ○子どもや保護者との意思の疎通や情報伝達のための配慮がなされているか。 ○個人情報の取扱いに十分注意されているか。  <b>4. 「はい」の回答が50%以下の項目</b>  ○父母の会の活動の支援や、保護者会等の開催等により保護者同士の連携が支援されているか。 ○保育所や認定こども園、幼稚園等との交流や、障害のない子どもと活動する機会があるか。 ○非常災害の発生に備え、定期的に避難、救出、その他必要な訓練が行われているか。  （裏面につづきます）
	2	職員の配置数や専門性は適切であるか	97%	0%	0%	3%	法令で必要とされている職員数に加え、児童指導員、福祉経験者、または従業者を1名以上配置（常勤換算による算定）しています。	
	3	生活空間は、本人にわかりやすい構造化された環境 i になっているか。また、障害の特性に応じ、事業所の設備等は、バリアフリー化や情報伝達等への配慮が適切になされているか	100%	0%	0%	0%	子どもたちが自分自身で活動に参加できるようにプログラム別にルームを設定しています。また、エレベーターの完備、各デイルームのフラット化により、すべてのお子さんがご利用しやすいようにバリアフリー化を行っています。	
	4	生活空間は、清潔で、心地よく過ごせる環境になっているか。また、子ども達の活動に合わせた空間となっているか	94%	3%	0%	3%		
適切な支援の提供	5	子どもと保護者のニーズや課題が客観的に分析された上で、児童発達支援計画iiが作成されているか	88%	9%	0%	3%	個別面談時に法人内共通のアセスメントシートを用いて、また発達検査やサービス等利用計画も参考にして児童発達支援計画書を作成しています。そして、月に1度、児童発達支援管理責任者、相談員、作業療法士、児童指導員等で多職種チーム会議を行い、子どもたちの療育、リハビリテーションの具体的な支援内容を共有化しています。	
	6	児童発達支援計画には、児童発達支援ガイドラインの「児童発達支援の提供すべき支援」の「発達支援（本人支援及び移行支援）」、「家族支援」、「地域支援」で示す支援内容から子どもの支援に必要な項目が適切に選択され、その上で、具体的な支援内容が設定されているか	91%	9%	0%	0%		
	7	児童発達支援計画に沿った支援が行われているか	91%	3%	0%	6%		
	8	活動プログラムiiiが固定化しないよう工夫されているか	79%	12%	3%	6%	当協会デイサービスの役割は、家庭・学校・地域と連携し、子どもたちの育ちを支え、本来持っているすばらしい力をエンパワーメントすることです。子どもたちのライフステージに応じて①子どもリハビリテーション②幼児療育支援③“学び・表現・遊び”④キャリア発達支援⑤居場所支援に取り組んでいます。上記の活動プログラムの立案は、サービス改善委員会を月1回開催し、プログラム内容を検討してエンパワーメントプログラムを計画・実施しています。	
	9	保育所や認定こども園、幼稚園等との交流や、障害のない子どもと活動する機会があるか	46%	24%	6%	24%		

	チェック項目	はい	どちらともいえない	いいえ	わからない	事業所が工夫している点	調査結果に基づいた事業所の改善目標
適切な支援の提供	10 運営規程、利用者負担等について丁寧な説明がなされたか	100%	0%	0%	0%	事業契約時において契約書・重要事項説明書の説明を行い署名・捺印を頂いています。  2018年度より、講師を招いて療育セミナーを開催して、家族支援プログラムを実施しています。また相談員が子どもの発達の状況や課題について共通理解できるように努めています。これからも保護者の方と“いっしょに子育て”をする姿勢に立ち、経験のあるスタッフがサポートさせていただきたいと考えています。  保護者会SUNOと連携してイベントの開催等をおして保護者同士、事業所・保護者連携に取り組んでいます。  個別面談時に法人内共通のアセスメントシートを用いて、また発達検査やサービス等利用計画も参考にして児童発達支援計画書を作成しています。そして、月に1度、児童発達支援管理責任者、相談員、作業療法士、児童指導員等で多職種チーム会議を行い、子どもたちの療育、リハビリテーションの具体的な支援内容を共有化しています。  お子さん、保護者の方の状況に留意して意志の疎通や情報伝達に努めています。  毎月、ご利用確認カレンダーを発行して、活動内容を発信しています。  法人としてプライバシーマーク（PMS）認証を取得して「個人情報保護マネジメントシステムを確立し、「個人情報」を安全に管理する体制を整え、運用しています。	<b>5.2020年度 事業所の目標</b> <b>①専門性ある療育・リハビリテーションを充実</b>  子どもたちの療育支援・リハビリテーション支援の充実に向けて、多職種（児童発達支援管理責任者、作業療法士、専門相談員、児童指導員等）によるチームアプローチを継続して実践することにより支援の質を高めていきます。具体的には、ひとりひとりの子どもたちを中心に、スタッフがアセスメント、支援方策、ふりかえりを共有して、子どもたちの発達支援を充実していきます。また、療育セミナー等の家族支援プログラムを広く周知していきます。  <b>②ひとり親、多子世帯や不登校の児童・生徒へのサポートを充実</b>  ひとり親、多子世帯へのサポートに向けて、就学前の子どもたちが過ごせる居場所づくりに取り組みます。また、不登校の子どもたちのサポートを向上するために、不登校の児童・生徒へのアセスメント・学び・生活サポートも継続して実施します。  <b>③感染症、緊急時等の対応を充実</b>  感染症、緊急時等の対応を充実していきます。具体的には、当法人内の子どもの支援に関わるすべての事業所連携により検討を進め、保護者の方と共有できるマニュアルを実行していきます。とりわけ、感染症の予防については、手洗い、消毒等、これまで以上に徹底していきます。  <b>クリエバは、子どもたちのニーズに合った、より個別的・専門的な支援の改善目標を設定します。子どもたちの強みを発見して伸ばす療育支援、リハビリテーション支援の充実に向け、今後みなさま方のご協力をお願いいたします。</b>
	11 児童発達支援ガイドラインの「児童発達支援の提供すべき支援」のねらい及び支援内容と、これに基づき作成された「児童発達支援計画」を示しながら、支援内容の説明がなされたか	94%	6%	0%	0%		
	12 保護者に対して家族支援プログラム（ペアレント・トレーニング等）が行われているか	73%	9%	0%	18%		
	13 日頃から子どもの状況を保護者と伝え合い、子どもの健康や発達の状況、課題について共通理解ができているか	97%	3%	0%	0%		
	14 定期的に、保護者に対して面談や、育児に関する助言等の支援が行われているか	82%	6%	9%	3%		
	15 父母の会の活動の支援や、保護者会等の開催等により保護者同士の連携が支援されているか	39%	18%	3%	39%		
	16 子どもや保護者からの相談や申入れについて、対応の体制が整備されているとともに、子どもや保護者に周知・説明され、相談や申入れをした際に迅速かつ適切に対応されているか	94%	3%	0%	3%		
	17 子どもや保護者との意思の疎通や情報伝達のための配慮がなされているか	97%	3%	0%	0%		
	18 定期的に会報やホームページ等で、活動概要や行事予定、連絡体制等の情報や業務に関する自己評価の結果を子どもや保護者に対して発信されているか	91%	3%	0%	6%		
19 個人情報の取扱いに十分注意されているか	97%	3%	0%	0%			
非常時等の対応	20 緊急時対応マニュアル、防犯マニュアル、感染症対応マニュアル等を策定し、保護者に周知・説明されているか。また、発生を想定した訓練が実施されているか	67%	18%	0%	15%	児童発達支援マニュアル、感染症マニュアル等を整備して職員に周知しています。また、職員だけでなく利用者の方と相互に確認できるマニュアルを作成、配布しました。	
	21 非常災害の発生に備え、定期的に避難、救出、その他必要な訓練が行われているか	49%	15%	0%	36%	長期休暇を活用して、消防署と連携して避難訓練に取り組んでいます。	
満足度	22 子どもは通所を楽しみにしているか	88%	12%	0%	0%	毎年、利用者満足度調査を実施して保護者等の意向を把握し、利用者満足度調査結果分析シートを作成して改善に努めています。また、2018年度より、厚生労働省が定める“放課後等デイサービスガイドライン”に基づき保護者向け評価表も活用して業務改善に取り組めます。	
	23 事業所の支援に満足しているか	100%	0%	0%	0%		
<b>集計結果（全体）</b>		<b>85%</b>	<b>7%</b>	<b>1%</b>	<b>7%</b>	<b>2019年度 保護者等の評価結果</b>	

i 「本人にわかりやすく構造化された環境」は、この部屋で何をするのかを示せるように、机や本棚の配置など、子ども本人にわかりやすくすることです。

ii 「児童発達支援」は、児童発達支援を利用する個々の子どもについて、その有する能力、置かれている環境や日常生活全般の状況に関するアセスメントを通じて、総合的な支援目標及び達成時期、生活全般の質を向上させるための課題、支援の具体的な内容、支援を提供する上での留意事項などを記載する計画のことです。これは、児童発達支援センター又は児童発達支援事業所の児童発達支援管理責任者が作成します。

iii 「活動プログラム」は、事業所の日々の支援の中で、一定の目的を持って行われる個々の活動のことです。子どもの障害の特性や課題等に応じて柔軟に組み合わせて実施されることが想定されています。

iv 「ペアレント・トレーニング」は、保護者が子どもの行動を観察して障害の特性を理解したり、障害の特性を踏まえた褒め方等を学ぶことにより、子どもが適切な行動を獲得することを目標とします。

**この度はアンケート調査にご協力いただき誠にありがとうございました。みなさまのご意見を踏まえて、今後も子どもたちが成長を実感できる事業所を目指していきます。**